

磐城水産新報

發刊の辞

主幹 伊藤隆次

毎月一日十五日發行
定價 一ヶ月 十錢
一ヶ月 三圓
發行兼編輯 伊藤隆次
編輯 伊藤隆次
福島縣小名濱町
磐城水産新報社

初夏六月、最も恵まれたる沿岸の期節、既に鯉期節にて出漁の準備に活氣を呈し各商家にては海水浴客を吸引するに忙殺さる。恵まれたる濱人此秋に我磐城水産新報は大なる使命を帯びて茲に孤々の聲を揚ぐ、其聲小なりと雖自負せる責務と抱懐せる理想は深大なり

今天下を睥睨するに政治外交に經濟に思想的に將亦勞資協調の一として不變の指針なく當局者又善導するの道を知らざる如し心ある者何ぞ憂如たるを得んや

多幸なる哉、我濱人、無限渺々たる大洋の一端に生を受く吾人等は無盡藏なる一大寶庫に直面せり

然らば我等の使命は何か吾が新報の本然の責務は何か曰く築工漁港の完成即濱三郡築工綱曰く勞資協調の合理化曰く漁船の改良製品技巧曰く一般に水産知識の普及等々

我等は先覺者先輩の後援の下に我使命を完せんとするものなり

今秋は千載一遇の御大禮に當り我等は八千萬國民と共に皇室の萬歳を壽さ益々國家の爲めに其本分を盡さんとすものなり

一言以て發刊の御挨拶と致します。

發刊に際して

縣水産試験場長 飛塚高次

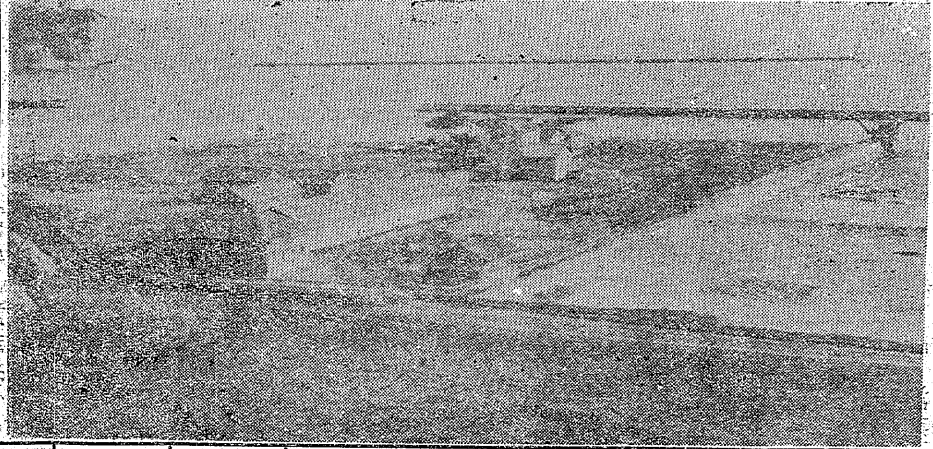
本縣水産を中心として磐城水産新報を發刊し水産に関する記事を規則的に報導する、計劃することは慶賀する所なり。

水産業は近時相當發達せるものありと雖も尙幾多の餘地あるものなれば之れが發達改良上優良なる水産機關の起ることは必要なり。

此の意味に於て磐城水産新報の發刊を祝す。

只此の種事業の經營は困難なるが故に經營者の奮闘努力を冀ふと共に、水産界諸賢の熱切にして深刻なる賛援を切望してやまず。

商港たる小名濱築港の全景



水産界人物

立花雄七君

今や目捷に迫る商港實現せんとする多事多端な小名濱町に少壯有爲の新人として漁業界町發展の爲め始終貫果斷的な勇を以て雄々しく邁進し居る立花雄七君

君迄で三代目の八島屋何人の耳にも親灸し居る、現に齡僅かに不惑に達せるのみにして町會議員漁業組合長の要職に在り資性温厚剛直の者如く飽く迄文化向上にして恰も半面處女の如きため終始一貫私財をなげ單調味を有し淡にしてうつつも町發展に努力の意人を撰ばず好く談し好く考を持ちつゝ邁進し居り。

前組長故野崎才助氏亡きつたとしてならば、三尺の鬪士としてこの責務重大で秋水引抜いて正義の前ならある。ば死をともしもの桂小五郎此時に當り君の獻身的努力坂本龍馬の如し、國家改革を俟つのみ

今や町發展の警鐘は亂打されて居る、町を双肩に負ふ君而して指針となり大小名濱を建設されん事を願ふ。

(寫眞は立花雄七君)

(次號は小野晋平君)



縣會議員

- 鈴木辰三郎
- 鷺崎清一
- 古川滿藏
- 野崎吉藏
- 山崎美三
- 若松三平

長谷川寅次郎

木村倉次

遠藤々之丞

中田政吉

山崎與三郎

飛塚高次

小野晋平

太清左衛門

立花雄七

比佐昌平

木村清治

安島重三郎

祝創刊